

水稻生育情報 (No.2)

平成28年6月13日
県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
TEL:0296-24-9206

【生育概況】

6月上旬の気温は平年よりも高く、日照時間が多くなっています。そのため、生育が進んでおり、草丈は高く、茎数は平年並みから多く、葉色は平年並みから濃いとなっています。

表1 水稻定点調査結果(6月10日時点)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色	
					葉色版	SPAD値
筑西市	5月1日	65	48.0	636	5	43.2
一本松	(5月2日)	(63)	(41.7)	(518)	(4.9)	(40.2)
下妻市	5月1日	59	42.9	554	4.6	43.8
加養	(5月2日)	(44)	(42.3)	(415)	(5.2)	(41.8)
桜川市	5月9日	53	34.8	242	4.7	39.9
元岩瀬	(5月13日)	(59)	(31.6)	(287)	(4.8)	(39.3)
桜川市	5月4日	52	36.4	397	4.8	41.2
真壁町飯塚	(5月6日)	(53)	(35.4)	(436)	(4.8)	(40.6)

()内は平成23～27年(5カ年平均値) ※桜川市真壁町飯塚は過去3カ年の平均注)出穂日は、今後の天候により前後する場合があります。

【これからの栽培管理のポイント】

- 既に中干し開始時期になっているところがあります。
分けつ盛期になると茎数は急激に増えるので、中干しの適期を逃さないようにしましょう。

・イネ縞葉枯病について

近年、県西地域においてイネ縞葉枯病の発生が拡大しています。この病気は、ヒメトビウカが媒介するウイルス病です。発病した後の治療方法はありません。

ウнкаは麦類の収穫後(6月上旬から中旬頃)に水稻に飛来しますが、その際、ウイルスを保有したウンカによりイネがこの病気に感染します。保有していないウンカが感染株を吸汁することで、新たにウイルスを保有することになり、この繰り返りで被害が拡大していきます。

感染すると葉が縞状に黄色くなり、分けつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死します(写真1)。また、枯死しなかった茎でも正常に出穂しなかったり不稔となるため減収に繋がります。

・イネ縞葉枯病の防除について。

茨城県病害虫防除所から注意報が発表され、県西地域で本病の発生が多くなることが予想されます。ウンカ類に登録のある育苗箱施薬を行わなかった場合は、本田防除を行きましょう。特に被害が大きい地域では、育苗箱施薬と本田防除を併せて行うことが望ましいです。

なお、本田での防除適期は6月21～25日頃となります。防除方法や薬剤等に関する不明な点がありましたら、お近くのJA各支店か普及センターにお問い合わせください。



写真1 イネ縞葉枯病の症状